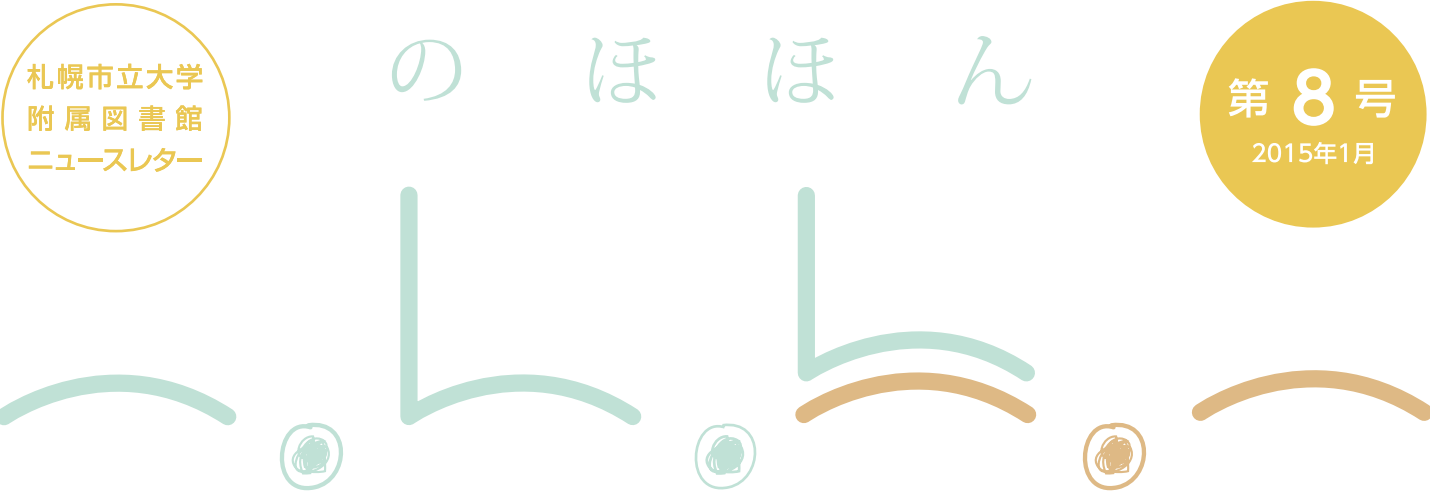


表紙の作品について
 そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト2014に参加
 石炭染めの作品「地上へ」旧北炭清水沢火力発電所にて展示
 鉱夫たちが、立坑の地下から生きて帰られたときに見るであろう地上からの光を染色で表現。
 深い穴の外の光は、鉱夫たちにとって生きている実感を湧かせるものだったと思います。
 産業革命時代、石炭を分留や精製し紫色の染料が発明され、それが世界最初の化学染料となりました。
 そこに炭坑と染色の繋がりを感じ、このような作品に仕上げました。

作者紹介
橋本 和子 (はしもと わこ)
 札幌大谷大学短期大学部美術科卒業。
 札幌市立大学デザイン学部メディアデザインコース在学中。上遠野敏教授ゼミ所属。日本の伝統文化に興味を持ち、独自で染色技法や和裁を模索し、和服をデザインし制作する。第29回 JAPAN TEX 2010 出展。2011札幌ファッションレボリューション参加。
 平成26年度 旭川医科大学看護学部卒業記念風呂敷のデザイン。



第8号
 2015年1月

ロゴマーク デザイン学部メディアデザインコース1期生 木村 尚史



橋本 和子 『地上へ』

編集後記

▶ デザイン学部・大学院デザイン研究科 町田佳世子
 のほほん第8号のテーマは「私の本棚」です。本好きな者にとって、本棚は魅力的な空間です。図書館の本棚、書店の本棚、自分の本棚に並ぶ本たちを見ると、心躍るに違いありません。このテーマにふさわしく、どのエッセイも、書き手と本の関わりを通して、書き手の人生や人柄、そして心の奥を垣間見るような、温かく、わくわくするものばかりです。本棚には1人1人の過去・現在・未来が詰まっていることを改めて感じます。
 昨年度発行の第7号から、表紙は本学の学生が在学中に作成した作品を掲載しています。本号の表紙もデザイン学部4年生の作品、そして各ページのイラストはデザイン学部3年生の作品です。さらに本号の印刷会社の担当は、2014年3月の卒業生です。このように本号は、教職員・学生・卒業生の力を結集して、皆様にお届けすることができました。
 2014年度の図書館の企画展示については、「写真のちから」だけでなく、7月～8月に「図書館で乾杯!」、11月～12月に「よむ本 みる本 ぶれる本」も実施しました。本号ですべてを報告することはできませんでしたが、いずれの企画展示も、図書館を訪れる楽しさと当館所蔵資料の魅力を伝える内容でした。

札幌市立大学附属図書館ニュースレターのほほん第8号
 編集 札幌市立大学図書館運営会議
 編集委員 町田佳世子 長谷川 聡
 原井 美佳 工藤 京子
 発行日 2015年1月20日
 発行 札幌市立大学附属図書館
 〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
 事務局 地域連携課 図書館担当
 TEL.011-592-2346
 制作・印刷 三浦印刷株式会社
 ご感想をお聞かせください。
 library@scu.ac.jp

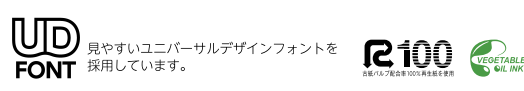
特集 **「私の本棚」**

- 他者の心を理解する**
 札幌市立大学附属図書館長 山本 勝則
- わたしの文字の社会**
 札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 特任教授 原田 昭
- 生きてきた歴史を語る私の本棚**
 札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 教授 河原田まり子
- 本の向こうに見える世界。**
 札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授 吉田 恵介
- 本は心の中で思い出になる**
 札幌市立大学看護学部・助産学専攻科 助教 多賀 昌江
- 読書というリアリティ**
 札幌市立大学デザイン学部 講師 石田 勝也

- あなたが創る未来の本棚**
 札幌市立大学看護学部 助教 坂東奈穂美
- 「知」の体験として優れているのは紙か？電子か？**
 -3つの学生生活で出会った本たちの紹介を通して-
 札幌市立大学デザイン学部 講師 福田 大年
- 私の本棚を選ぶ理由**
 札幌市立大学事務局地域連携課 課長 上田 理子
- 私の本棚にある大好きな本。**
 札幌市立大学桑園事務室学生支援係 佐々木垂矢子
- 学生の本にまつわる話**
- 図書館情報：企画展示「写真のちから」**
- 附属図書館貸出・視聴ランキング**

札幌市立大学 附属図書館
 SAPPORO CITY UNIVERSITY

<http://www.lib.scu.ac.jp/>



他者の心を理解する

札幌市立大学附属図書館長
山本 勝則

筆者紹介

看護学部・大学院看護学研究科 精神看護領域 教授
精神看護領域において、シミュレーション、コミュニケーションと他者理解、メンタルヘルスなどを中心に研究活動を行っています。認知症グループホームの研修会や講演会、公開講座などを通して地域と関わっています。イラスト・デザイン学部3年
福士 彩子

職場の本棚に「他者を理解する」ということはどのようなことか」ということに関する一区画があります。このちょっと変わったコーナーに並んでいる本を何冊か紹介します。

人は誰しも他人を意識します。誰かと会っているときには、その人が何を思っているだろうかと、相手の心の状態を読み取ろうとします。また、自分の行動を相手がどのように思うだろうかと考えつつ行動します。

ところが、金沢創さん（1999）は、「『他者の心』は論理的には存在しない」と言っています。これはいったいどういうことでしょうか？他の人がどう思うだろうかとすることを気にしない行動をする人はめったにいません。相手が喜ぶことをしようとしたり、他人の目を気にし過ぎて自意識過剰になったりします。にもかかわらず彼は、他者の心はないと言い切っています。では、私たちが他者の心を意識するというを、彼はどのように考えるのでしょうか？それについては「しかし、われわれヒトは、現実には『他者の心』を認識してしまうようにできている」と述べています。これは何を意味するのでしょうか？その意味の探求には進化論、ポパーの反証主義、心の理論などが登場し、深みと広がりを見せます。出典は『他者の心は存在するか <他者>から<私>への進化論』金子書房です。

もっと過激な主張が載っているのは『哲学の問題群 もういちど考えてみること』ナカニシヤ出版です。編著者の麻生博之さん（2006）は、独我論と呼ばれるものを紹介しています。これは、「この私が存在すること、ただそれだけがたしかなことである。…存在するのはこの私だけであり、それ以外のものごとはずべて、この私の意識内容にすぎない」と考える立場です。デカルトは、われ思う故にわれありと言いました。デカルトが言うように、私という意識があることを否定することはほとんど不可能です。しかし、私が意識する様々な内容が実際に存在するかとなると、はっきりしません。この独我論は、他者の心

だけでなく、他者の存在を否定します。なお、意識された内容が現実と違っている場合の実例として、錯覚や幻覚があります。独我論は自分以外の存在を認めない立場ですが、麻生さんはこれに対抗する考え方として、「『他者の他者』としての私」という考え方も紹介しています。それは、「唯一のこの私という意識が生じるのは『他者の他者』というかたちにおいてではない」という立場です。

マルティン・ブーパー（1923/1978）は、独我論や「他者の心」の否定に対して、正反対の立場をとっています。彼は『我と汝・対話』みすず書房において、「我それ自体というものは存在しない、存在するのはただ根源語・我—汝における我と、根源語・我—それにおける我だけである」と言っています。我それ自体というものは存在しないという立場は、独我論と鋭く対立します。さらに、ものを意味するそれと、人を意味する汝も鮮明に区別しています。私たちは、人に対しての時とものに対しての時とは、意識の持ち方がはっきり違います。ものを見ているときは客観的に観察できますが、他者を見ているときは、相手からも見られていることを意識しながら見えています。

最後に『ミラーニューロン』紀伊国屋書店を紹介したいと思います。ジャコモ・リゾラッティさんら（2006/2009）が、他者の意図や期待を理解することについて、脳科学から説明しています。彼らは、自分が行動する時と他者が行動するのを見ているときとで、同じ脳細胞が活性化することを見出しました。これは、他者が目の前で何かしているのを見たときに、自分が行動したときと同じ体験をするということの意味します。つまり、他者の体験を理解することについて、科学的根拠を与えます。最初の発見は行動に関するニューロンでしたが、その後、感覚や共感などに関わるニューロンへと研究が進展しています。最近の動向については、子安増生さんら（2011）が『ミラーニューロンと〈心の理論〉』新曜社で紹介しています。

わたしの文字の社会

札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 特任教授
原田 昭

筆者紹介

2006-2012 札幌市立大学初代学長。現在、同大学名誉教授、デザイン研究科特任教授。日本デザイン学会会長、日本感性工学会会長を経て、現在、アジアネットワークビヨンドデザイン協合理事長、2012-現在 北海道陶芸作家協会会員。1965 国際プレファブ住宅コンペ最優秀賞、1977 通産大臣賞「ガラスファニチュア」等受賞。博士（デザイン学）

イラスト・デザイン学部3年
渡辺 智美

私の自宅の本棚には、約3,000冊の図書たちが棲んでいる。GKインダストリアルデザイン研究所でのデザイン専門図書、筑波大学で学生たちにデザインを教えるための図書ならびにデザインに多変量解析を導入するための図書や、インタフェースデザインを実践するための認知科学の導入のための図書、感性工学を創設するための図書、札幌市立大学創設のためのデザイン社会の未来に関する図書という世界である。本棚の中から私の思考を作り上げた7冊を選んでみよう。

(1)『形の合成に関するノート』（クリストファー・アレグザンダー著、稲葉武司訳、鹿島出版会、1978）

デザインの形は、それを構成している要求変数の相互の関係を表すツリー構造のダイアグラムを得て、それに物理的属性を与えることによって実現する。本書は、デザイン対象の構造的決定にコンピュータ・プログラムを用いたという点で大きな衝撃を与えた。この内容は著者の博士論文で1964年に出版された。

(2)『生態学的視覚論』（J.ギブソン著、吉崎 敬、古崎愛子、辻敬一郎、村瀬 豊訳、サイエンス社、1985）

「アフォーダンスとは、人間と環境の相互依存性に関係した概念であり、そして知覚することと行為との運動に関係している。アフォーダンスは、環境の記述、環境を特定する情報、情報の抽出によって理解される。本書は、認知心理学、インタフェースデザインに強烈な影響を与えた。

(3)『システムの科学』（ハーバートA.サイモン著、稲葉元吉、吉原英樹訳、パーソナルメディア、1987）

経営学、コンピュータサイエンスの専門家が、「自然科学は、事物がいかなる状態で存在しているかにかかわりを持つ、しかしデザインは、いかに存在すべきかに関わりをもち、また、目標を達成する人工物の考案に関わりをもつ」という明快な人工物科学の認識を表明した書である。

(4)『メンタルモデル』（P.N. ジョンソン・レアーダ著、海保博之訳、座業図書、1988）

日常的な推論には、2通りがあり、意識した推論は明示的推論が使われ、直感的な判断や談話理解には、暗黙の推論が使われる。直感的に行われる暗黙の推論が人間のメンタルモデル（思い込み）に依存していることを指摘した点で、認知科学ならびにインタフェースデザイン界に大きな影響を与えている。

(5)『誰のためのデザイン？—認知科学者のデザイン原論』（D. A. ノーマン著、野島久雄訳、新曜社[新曜社認知科学選書]、1990）

デザイナーは典型的なユーザーではない、という考えから人間中心のデザインの必要性を主張している。人はどのように作業をするのかという「行為の七段階理論」は、その後インタフェース設計における基本プロセスとして世界中に普及した考えである。本書はまさに情報化社会におけるデザイン入門書である。

(6)『情と意の脳科学』（松本 元、小野武年共編、培風館、2002）
脳は情報処理の仕方を獲得するのが目的である。人間本来の目的はどれだけのことを成したかの出来高で批評しようとする現代社会の風潮は人を苦しめている。中心に据えるべき社会の尺度は、人に対する評価を出来高評価ではなく、プロセス評価とすることである。人の幸福はその人が獲得した成果ではなく、高きに向かって進もうと努力している姿にある。この考え方は全ての教育にとって重要な考え方である。

(7)『自己組織化と進化の論理』（スチュアート・カウフマン著、米沢富美子監訳、ちくま学芸文庫、2008）

創発（構成要素の集合のみによっては予測できない現象が発現すること）という現象が起こるしくみについての基本的理解のための解説がなされている。生命の誕生、気象現象、経済システム、国際政治といった現代における難解な課題に対して複雑性理論を基にして、解決できる可能性を説く。

生きてきた歴史を語る私の本棚

札幌市立大学看護学部・大学院看護学研究科 教授
河原田 まり子

筆者紹介

地域看護学領域 教授

保健師としての経験を積み、北海道大学大学院医学研究科予防医学専攻にて公衆衛生を学び博士（医学）を取得。公衆衛生看護学が専門である。

「公衆衛生の研究課題は現代社会の中にある。」を座右の銘として、地域保健の視点から人々や環境問題の中にある健康課題をテーマに研究に取り組んできた。現在は人々の絆と健康に関する研究に取り組んでいる。

イラスト・デザイン学部3年
加藤 杏奈

今回のテーマである「私の本棚」を子供の時代に遡って思い描いてみた。自分の生きてきた年代によって、「私の本棚」の様相は変化してきた。生きてきた軌跡を振り返るようで、なつかしさが込み上げる。

小学生の頃に、3人兄弟の我が家に世界少年少女文学全集が突如現れた。表紙はえんじ色で、金色か銀色の文字で彩られていた。実際は違っていたかもしれないが、当時の私には本の存在が眩く感じた。必ずしも裕福とはいえ、両親は仕事で忙しく、読書に勤しんでいる姿は記憶に残っていない。そのような我が家に、なぜ両親は文学全集を揃えてくれたのか。子供の頃はそんなことは露とも考えず、目の前に本がある環境の中で自然に本を読む楽しさを覚えていった。食事で呼ばれても、「もう少しだから待って。」と夢中に読みふけた。「15少年漂流記」など冒険物語は特にはらはらした。「赤毛のアン」や「グリム童話集」なども何度も読み返した記憶がある。

高校、大学の時代になると、太宰治や五木博之など日本文学に関心が移っていった。また、ドストエフスキーなど海外文学にも関心が向いていった。「生きるとは何か」答えが見えない根源的な問いに悩む年代だったのかもしれない。ゲーテの「生き生きと生きよ」を読んで、視座の転換というのか、目の前が明るくなったような気がしたことを覚えている。当時の本棚から、自分の生きる道を見出すために、模索していた歴史が読み取れる。学生時代は図書館の利用が多く、本棚に残っている本は少ないが、心の本棚には新書が増えていったように思う。

就職は私の本棚の様相を変えていった。就職してからは、仕事に関係する文献が私の本棚を陣取っていった。気がつくと私の本棚には専門書が並び、やや味気なく、しかし、紛れもなく自分の生活を象徴している。30代の初めに、私は看護の世界に飛び込んだ。家族の病気がきっかけで、大切な家族が病気に

なるつらさを初めて体験した。この時期に巡りあった本の一冊に渡部博氏の「アマリリスは咲いても」がある。癌で死を宣告された医師の手記で、傷ついた心を癒してくれた。

社会に出る前が第1の人生、社会人として仕事をし、新たな家族形成の時期を第2の人生とするならば、第2の人生では様々な出来事に遭遇する。私の第2の人生には、その時々々の悩みや課題に打ち勝つための心の本が時々顔を出してくる。暗中模索の時には、デールカーネギー氏の「道は開ける」が大いに私を鼓舞してくれた。病気で入院を余儀なくされた時には、田野原重明氏の「生き方上手」は弱っている心に沁みわたった。振り返ってみると、これまで多くの本に出会い、随分励まされてきたように思う。

時々、子供の頃や青春時代に心を躍らせた本を読み返してみたい気持ちになる。しかし、本棚に残っている若い時に読んだ本の文字はとても小さい。よく読んでいたものだとして若き日の自分の視力に驚く。このような時に、眼鏡を使用しなくても文字を拡大して読めたら便利だと思う。「読み返したい」という気持ちを実現させるには、どの年代になっても読み返せるように、コンパクトに収納でき、文字の拡大機能も使えるデジタル機能の活用も便利だと思う。しかし、形ある本の魅力も捨てきれない。85歳になった母に、「子どもの頃にあった文学全集はどうしたの。」と聞いてみた。定かではないが、いとこに譲ったらしい。本棚を眺めながら郷愁の念を感じつつ、人生を振り返ってみたい気がする。

最近、渡辺和子氏の「置かれた場所で咲きなさい」が私の本棚に仲間入りした。英詩“Bloom where God has planted you.”が本のタイトルになっている。心に和らぎを与えてくれる本である。

本の向こうにみえる世界。

札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科 教授
吉田 恵介

筆者紹介

空間デザインコース 教授・技術士

(都市及び地方計画)

京都大学農学部林学科造園学専攻卒業、名古屋役所（造園職）にて都市および地方計画の経験を積み、札幌市立高等専門学校教授を経て現職。北海道大学大学院農学研究科生物資源科学専攻にて景観評価を学び博士（農学）を取得。造園学が専門である。持続可能なコミュニティデザインの実践をハードソフト両面から地域住民とともにやっている。

イラスト・デザイン学部3年
福士 彩子

本は読後の充実感や、本を閉じた時に現実に戻る瞬間を楽しめる面白いメディアである。一冊の本を通して作り手の世界を垣間見ることもできる。

中学では夏目漱石、宮沢賢治、江戸川乱歩、川端康成、山本有三といった当時の文学、推理、怪奇小説などのベストセラー本をよく読んだ。さらに人生で一番本を読んだ高校時代にはだいたい好みが変わった。高校の国語教員が永井荷風に弟子入りしており、毎回の授業時に回顧談を聞かされた。その教員の醸し出す世界の影響から、横光利一、田宮虎彦、安岡章太郎、坂口安吾、稲垣足穂、梶井基次郎、中原中也といった、「往年の」と前置きするような文学作品を乱読した。さらに文学界や群像といった文芸雑誌や三島由紀夫、阿部公房、大江健三郎、吉行淳之介といった流行作家の作品も読んだ。そういった本を読むお好みの本棚は、高校の食堂付円形図書館にあった。外ののどかな景色と室内の食べ物の香りが混じり合う不思議な空間も楽しむことができた。また下校途中の駅前の古本屋ももう一つの本棚であった。その古本屋は薄暗く、客の出入りも少なかった。とても古い本は破格の値段のため、お金のない学生にとってはありがたかった。ただ古本は旧仮名遣いや古語で書かれたものも多く、ほとんど一筋縄では読めない文字の羅列であった。

若かった頃の一日の時間はとても長く感じられたが、反面その年代の集中力の高さや娯楽機会の少なさは多くの読書時間を生んでくれた。おかげでいろいろな時代の本を気軽に読むことができるようになったのではと思っている。当時の古本は私のもう一つ前の世代の教養書が多かった。流行は短し、時代の教養もしかりである。阿部次郎やカント、キュルケゴールやニーチェなどの哲学書や東洋、クセジュ、岩波といった文庫本、近松門左衛門はじめ江戸期の演劇本や洒落本といった類を読んだ。

本を読んで多少役に立ったこともある。仕事をするようになって、年上の人と話をするときはその人の教養と思いを重ねることができたからだ。話は飛ぶが、高専時代の清家清校長が冗談とも本当ともわからない話を教員会議でする時には、その言葉の真意や出典を推測しながら聞くのは楽しいものだった。

大学に入って毎日が「のほほん」ということになってからは、私の本棚も様変わりした。文化人類学や人文地理学の教員の影響で、あちこち身儘気儘にフィールドワーク(?)をし始めたからだ。部屋の本は時刻表と地図とノートが主体になった。当時の「書を捨てて」という流行にすっかり便乗していたのかもしれない。ただ教養課程の教員がベンヤミンやトーマスマンの研究者であったり、集中講義にきた教員の政治的な考え方を聞いたりすると、単純に影響を受けて、ジンメル、エンツェンスベルガー、竹内実などといった社会、政治や経済学関連の本を読むこともあった。面白そうな話を聞くとすぐに影響されやすいということである。美術関係についてはこちらも授業を通して美学や美術の理論書を読むようになった。高校の時は日本民芸館や山種美術館などがお気に入り、美術作品を訪ねることが好きだったが、そこに理論というものがあるとは考えもなかった。ヘーゲルやアラン、張彦遠や世阿弥などの理論書が面白かった。当時は自ら本を探す力は（気も）あまりなく、誰かの「お薦めに」に大いに頼っていた。

最近IT技術の進歩により簡単に情報の海にアクセスできるようになった。反面、身近な人を介して、あるいは書棚の背表紙を頼りにして、「憧れの」、「お薦めの」世界に船出する機会が少なくなったような気がする。これから私の本棚と、人と人をつなげるメディアとしての本自体がどんなかたちになっていくのか、とても楽しみにしている。

本は心の中で思い出になる

札幌市立大学看護学部・助産学専攻科 助教
多賀 昌江

筆者紹介

母性看護学領域 助教
助産師として11年半臨床で経験を積み、母性看護学・助産学専攻科教員として「愛のある看護師を育てるための楽しくわかりやすい授業」を実践している。デザインと看護の連携研究を推進し、2009年から研究開発を主導した「死産児を安置するための専用棺」は、産学連携にて2012年に市販された。研究分野は多岐にわたり、現在は父親の育児力を高めるための研究と、胎児と音楽との関係性を探求している。

イラスト・デザイン学部3年
渡辺 智美



私の本棚には思い出の詰まった本が数冊あります。引っ越しなどを経ても処分することの出来ないそれらの本を手にとると、その本を使っていたときの思い出が蘇ってきて、しばらく本に夢中になります。いくつになっても何度読んでも、その本を読んでいたときの光景や思い出が心のなかで映画のように浮かぶのです。

私は助産師として大学病院に勤務したのちに、英語と異文化コミュニケーションを学ぶため30歳のときに大学の英文科に編入しました。きっかけは、臨床で出会った産後のポーランド人女性とのかかわりです。ある日担当だった私は、授乳の説明を英語でうまくすることが出来ず、初産の彼女はぐずる赤ちゃんを抱きながら目の前で泣きはじめました。私は「日本で出産する外国人女性が、日本で出産して良かったと思えるようなかわりの出来る助産師になりたい」と思い、本格的に英語を学ぶことにしたのです。ひとまわり以上年齢が若い同級生と一緒に学ぶことは、当初戸惑いの連続でした。勉強は大変でしたが、年齢や国籍の違うたくさんの友人に恵まれ、人間力を磨くことのできた貴重な4年間となりました。

英文科在学中に、アメリカ・オレゴン州に1年間留学しました。当時32歳の私は、18歳のアメリカ人ルームメイトと目からウロコの寮生活を経験しました。寮はたいへん賑やかで、「見た目は若いけれど“助産師”の日本人」は、入学したてのアメリカ人学生に遊ばれたり、日本人学生に頼られたり、それは毎日が激動の日々でした。アメリカ人学生は日曜日の夕方から勉強モードに入り、金曜日のお昼までは猛烈に勉強します。TGIFとはこういうことだったんだ・・・ということを実感した私は、同じ体制で平日は時間を惜しんで勉強をしました。私は24時間開館している大学の図書館で、夕食後から深夜・朝方まで過ごしていました。本棚に囲まれ、いつものお気に入りの席に座り、膨大な宿題に格闘する日々。深夜0時を過ぎると館内にいるのは日本人を中心にほとんどが留学生となりました。図書館の何万冊という本に囲まれながら図書館で生活していた留学生活は、私の人生の貴重な1ページです。人生のなかであれほど勉強に

没頭した日々は、これからはもうないと思います。「1週間で1冊読んでレポートを書きなさい」という宿題がでたときに読んだ300ページの英語の本は、思い出の1冊となっています。留学中に会った本は、私の本棚のなかでこれからもずっと存在していくでしょう。必死に勉強した留学中の生活を考えると、多少苦しいことがあっても乗り越えられそうな気持ちになるのです。「お金を払って勉強しているのに、勉強しないで授業中に寝て、遊んでいるなんて信じられない」とアメリカ人学生が言っていた言葉の意味が留学中によくわかりました。今の学生達をみていると、勉強することの大切さや勉強できる環境にある幸せを当たり前だと思わずに、時間を大切に一生懸命勉強してもらいたいと思います。

今、幼い子ども3人を育てながら本を読むひときは、寝る前に子ども達がリクエストする絵本をよむ時間です。1人1冊でも3冊となるため最低30分はかかります。絵本を読んでいるうちに私のほうが先に眠くなってしまい、本のストーリーがおかしくなってしまうことや絵本が頭上に落下することもたびたびあります。本の世界からアドリブで脱線すると、子ども達は覚醒して結局大騒ぎになってしまうことも・・・私が5歳の時に読んだ絵本「クリーナおばさんとカミナリおばさん：西内みなみ、堀内誠一著、福音館書店、1974」は、ゴミ島に捨てられた掃除機のクリーナおばさんがカミナリ山で再び働くお話です。諦めないで希望をもつことを教えてくれるストーリーは、私も子ども達も大好き。この本は、私の子ども時代の思い出と、毎日が大変な今の子育て中の思い出となる決定打の1冊です。

お薦めの図書

「クリーナおばさんとカミナリおばさん」西内みなみ、堀内誠一著、福音館書店、1974



イラスト・デザイン学部3年
渡辺 智香子

出張や旅行の準備をする際に、必ずと言っていいほど持っていく本の選定を迷ってしまう。読みかけの本があったり、もう一度読み返してみたいと思う本があったり、理由は様々なものだけれども、とにかく散々迷って、結局残ったのが分厚いハードカバー2冊なんてことになることがよく起こる。

加えて、バッグを持っての移動が多い旅程だと、「僕はなぜこんなに重いものを持ってきてしまったのだ？」と最後にはほとほと嫌気が差すのだが、それでもやっぱり次の出張準備の時にはどれにしようかな？と迷っている。

自分自身、本の選定に迷うことを楽しんでいるフシがないわけではないが、部屋中に広げられた本の山を見てみると、そもそも目の前にある本棚ごと一気に持ち運べたらいいのにも思ったりする。そうすれば、最後まで決めきれない自分の優柔不断さを感じなくても良いし、移動中に気が変わって別な本に手を伸ばすこともできる。一石二鳥どころか三鳥、四鳥ではないか。

携帯音楽プレーヤーが出現したのが1979年。現在ではハードディスクやフラッシュメディアに記憶するようになり、誰もが何千という曲を持ち運べるようになった。

そんなデジタル化の波は、文字というメディアでも同様に起こり、最近では自炊（じすい）と呼ばれる行為が一つの整理術として様々な機会で紹介されている。

自炊というのは端的に言うところ所有している書類や書籍を断裁し、スキャナでデータ化するだけのことなのだが、“机の上の山積み書類を一挙に解決！加えてデータをクラウド上にアップロードすれば、世界のどこにしようが自分の本棚にアクセス可能！”なんて雑誌の煽り記事をいたるところで見かけると、ついつい新しもの好きの心が揺れて試してみたくなってしまふ。

早速手元にあったスキャナを使って実践しようと本と向き合ったのだが、これがなかなか難しく、いざ取り組もうとする本と断裁に非常に罪悪感を感じてしまう。どうするか、こうするが散々迷ったあげく、仕方がないので、まずは同様の古本を買って実践してみることにした。

読書というリアリティ

札幌市立大学デザイン学部 講師
石田 勝也

筆者紹介

メディアデザインコース 講師
映像制作、空間演出、サウンド&ビジュアルパフォーマンスを専門分野とし、空間とデジタルコンテンツの親和性に関する研究や、自身のプログラミング及び映像制作、VJ活動を通じ、空間における映像の意義を研究している。多くの映像作品を制作する一方、2014年に札幌で開催された札幌国際芸術祭2014の運営にも関わった。

さて、本を断裁する時の気分はやはりたとえ古本でも嫌なものだが、とりあえず文庫本を10冊ほどバラし、データ化することに成功。タブレット端末に入れて持ち運ぶことが出来るようにしてみると確かに便利なのことがわかる。文章内の言葉の検索、自動英機能、携帯性、音楽を聞きながらの読書など、何しろその簡便さと機能の充実度たるや、紙を圧倒している。自炊を始めた当初は「これでは紙は太刀打ち出来ないだろうな」と感じて、タブレットを持ち運ぶ生活に変更しようと日々携帯するのを試みた。しかし、結果は意外にも数週間ですぐにやめるということに。

その一番の理由は読むという動作にある。タブレットでの読書の特徴としてページをめくる行為はスワイプ（指を横にスライドさせる行為）やタップという動作に置き換わるのだが、僕にとってその行為への違和感がいつまでたっても解消されなかったからだ。

メルロ＝ポンティは「知覚の現象学」において、知覚の意味を身体を絡めて深く考察した。読書とは、紙一枚一枚の質感、めくる際の音、指先の動き、読後感、これら一連の動作そのものであり、それは身体的な記憶として刻まれる。それは人間の感覚と密接にリンクし、自身のリアリティに繋がっている。

あらゆる人がデジタルガジェットを手放せなくなった現在、ともすると人間のリアリティは身体外に存在すると錯覚しがちだ。しかしその本質を考えていくと、本について手垢がいかに重要かがわかってくる。

デジタル化の波に逆らうことは不可能だ。しかし、ふと思うのだ。本を何百冊も入れたタブレットの重さと、本棚から取り出した一冊の本の重さ、一体どちらが大切なのだろうと。

お薦めの図書

「知覚の現象学」モーリス・メルロ＝ポンティ著
知覚とはどのようなものか、現象学から探求した著者が、知覚する身体と意味の関係性を説いた歴史的名著。

あなたが創る未来の本棚

札幌市立大学看護学部 助教

坂東 奈穂美

筆者紹介

看護管理学領域 助教
札幌市内の病院で看護師として勤務後、2012年より看護管理学領域の教員として札幌市立大学に在籍する。研究分野は、チーム内の異なる背景をもつ人材のマネジメントである。自分が知らない新たな発見をすることが好きのため、趣味は旅行。旅先では、美味しい土地のものを食べ、その土地らしい自然と文化を感じ、人との出会いを楽しむ。「まず、やってみる」がモットーである。

私にとって図書館は様々な要望に応えてくれる、大きな本棚のある特別な場所です。学生のときは課題のレポートに使う参考文献を探すため、図書館は必須の存在でした。教員になった現在も講義資料を作るとき、研究の参考文献を探すとき等、必ず図書館を利用します。そして、課題に取り組む気持ちが萎えた時に図書館に行くと、静寂の中で黙々と勉強している人の姿が自分の「やる気スイッチ」を押してくれます。また、勉強に疲れたときは、本棚にある専門書以外の本が気分転換になります。色々な過ごし方ができるので、図書館に行くと、つい長居をしてしまうことが度々です。

最近では電子書籍が世の中に浸透し始め、タブレット端末の画面に指を滑らせながら、地下鉄の中で「読書」をする人も珍しくなくなってきました。読みたい書籍はネットで瞬時に検索でき、タブレット端末1つで何冊も読むことができます。では、未来の図書館はどうなっているのでしょうか。図書館が電子書籍だけの所蔵になった未来を想像してみよう。保管に場所を取らないので、書庫や本棚はなくなりパソコンがずらりと並びかきません。貸出手続きはパソコンの画面からワンクリックで24時間いつでも可能。すべてパソコンで対応できるため、図書館はインターネット上のWebサイトとなり、もはや図書館という建物は街には無くなってしまいかもかもしれません。Wi-Fiが張り巡らされた街では、自宅でも屋外の公園でも、どこにいてもアクセス可能となる。紙も使わないので、環境の保全にも一役かっている。このような便利で効率が良く、瞬時に自分の希望を叶えてくれる未来の電子図書館は、さぞかし便利でみんなが利用しやすいものとなると思います。

では、紙の書籍がずらりと並び現在の図書館は、どのような良さがあるのでしょうか。図書館で書籍を探すには、まず書籍のID番号ともいえる請求番号を調べます。そこから配架されている棚を探し、お目当ての書籍にやっとならぶと出会えます。なんと、面倒な手続きが必要なことか。しかし、そこに至るまでには、数々のワクワク感があります。何冊かの本を同時に探すときには、似たような請求番号ばかりで、この分野に関心がある自分を発見します。お目当ての書籍を見つけたときの喜びは



イラスト・デザイン学部3年 加藤 杏奈

もちろんです。そのとき、ふと隣の書籍に目をやると予想外に興味深いタイトルが目に入ります。この書籍も一緒に借りることになります。さらに上の棚に目をやると、そこにも待っていましたとばかりに、気になる書籍が鎮座しています。結局、2冊借りる予定が、いつの間にか5冊、6冊の貸出手続きをしています。持ち帰り、借りてきた書籍にじっくり目を通すと、偶然見つけた書籍のほうを探していた情報が載っていることもあります。このように、図書館はLuckyな偶然に出会える空間・場でもあると思います。

一見、相反するような電子書籍と紙の書籍。それぞれに、使い勝手が良い部分と使いにくい部分の両方があります。これは、まるでコインの表と裏のような関係です。利用する側が両方の書籍の特徴を理解したうえで、どちらを利用するのか使い分けると、より充実した図書館ライフとなり、充実した本棚が創れるのではないのでしょうか。

では、私自身の本棚はというと、看護系と経営系の本が入り混じっています。看護と経営は、電子書籍と紙の書籍のように、真逆と思われがちです。しかし、みなさんご存知のナイチンゲールは、看護ケアだけではなく病院の管理・経営という考えをもたらしました。どれほどの素晴らしい看護を実践できたとしても、その病院・施設を運営する人材や資金がなければ維持できず、善行も夢物語となってしまいます。誠意をもって人を支援する看護と、価値を社会に提供する仕組みを創る経営。その意外な関係をわかりやすく書いた本が、『ナイチンゲールに学ぶ、ときめきの経営学』です。看護と経営。それぞれの良い部分を、是非、見つけ出してください。エッセイの感覚で読めるので、気分転換に最適な1冊です。

お薦めの図書

村松啓史 (著) 『ナイチンゲールに学ぶ、ときめきの経営学』
メディカ出版、2007

「知」の体験として優れているのは紙か？電子か？
- 3つの学生生活で出会った本たちの紹介を通して -

イラスト・デザイン学部3年 中谷 阿悠太

私が北海道教育大の美術科でモラトリアム学生をしていた1990年代後半は、ネットが日本に本格的に普及し始める時期でした。デジタルやネットに興味を持ちつつ図書館や本屋にも通っていましたが、美術・デザイン系の本を手を取ることを心掛けていましたが、大抵は効果の高い睡眠薬となっていました。そんな時、先生の本棚を物色して思わずタイトルに惹かれたのが「生きのびるためのデザイン [1]」です。この本は、消費社会と商業主義的デザインの限界、社会のための本当のデザインとは何かを我々に問うています。1974年出版にも関わらず21世紀が直面する課題への多くの示唆があります。当時はまったく理解できませんでしたが、今でもたまに読み返しています。

デジタルメディアを研究していた大学院生時代、大きな影響を受けた本の一つは「John Maeda MAEDA&MEDIA [2]」です。デジタルの本質を理解しデザインすることの大切さを、著者の実践に基づいて書かれています。特に著者の父親の豆腐作りの件は、デザインに対する姿勢がとてもよく表現されている部分です。

大学院修了後、仲間と起業し本を読む暇が無いくらい働きました。経営が軌道に乗った時にふと「自分が空っぽになった」気がして、東京の美術系大学院に無謀にも入学しました(2つ目の修士号)。そこで「情報デザイン」に出会い、その後の活動の基礎となる経験ができましたが、これまでとは全く違うデザインの環境に自信喪失状態に陥ってしまいました。そんな私に先生が本棚から取り出して勧めてくれた「情報デザイン 分かりやすさの設計 [3]」は、コトのデザインに必要な理論と実践が詰まった本で、今でも繰り返し読んでいます。

昔からの癖で、本屋や図書館の本棚をポーッと眺めることがあるのですが、目的とは関係ない本が突然目に飛び込み、私の本棚の一員になることがよくあります。例えば学生時代に読んだ「河童が覗いたトレイまんだら [4]」と「大正時代の身の上相談 [5]」はそんな出会いをしたユニークな本でした。「河童が覗いた…」は、丹念に描かれた俯瞰図とインタビューで様々なトイレを語っています。「ユニークとは面白さを真面目に追

札幌市立大学デザイン学部 講師

福田 大年

筆者紹介

コンテンツデザインコース 講師
インタラクティブデザインをキーワードに、遊びのデザイン、障害者自立支援プロジェクト、遠隔看護システム、札幌市円山動物園の屋内外サインデザインをはじめ地域社会に関わる様々なプロジェクトに携わる。遊びワークショップ「Connekid! (コネキッド)」でキッズデザイン賞2013、2014を受賞。ディレクター、プランナーとしても活動中。

求すること」が分かる本であり、フィールドワークの良書でもあります。「大正時代の…」は、約一世紀前の日本人が新聞の「身の上相談コーナー」に投書した悩みと答えが載っています。当時の時代性を映し出す悩みばかりですが、その本質は現代の私たちと変わらないなあと納得してしまう本です。

何かの本で読んだのですが、人は物事を理解する際に五感が伴った体験でないと「知」として吸収できないそうです。私はそれを学生時代の経験、そして本を通して理解できるようになった気がします。

デジタル技術を使った体験のデザインは、歴史も浅くまだ発展途上です。デジタルデータだけで何かを理解しようとする行為は、現段階では本当の「知」にはなりません。本は、人の考えを端的に編集した優れたパッケージであり、人の思考に向き合うためによくデザインされた形態です。今後、電子化によって本の形態は変化していきますが、その本質は変わらない気がしています。それは、時代が変わっても人の本質が変わらないことを多くの本が教えてくれているので、本もまた然りだと思っからです。

読書が人を賢くするとは限りませんが、先人の「知」が詰まった本、そして「知」の集積場である本棚を眺めることは、実世界、電子世界の区別なく「豊かな生活をデザインする」とても貴重な体験の一つであることは、今後も変わらないのではないのでしょうか。(読書だけでデザイン能力が向上しないことも変わらないと思います…)

お薦めの図書

- [1] ヴィクター・パパネック著、阿部公正訳、生きのびるためのデザイン、晶文社、1974
- [2] 前田ジョン、John Maeda MAEDA&MEDIA、デジタルログ、2000
- [3] 情報デザインアソシエイツ編、情報デザイン 分かりやすさの設計、グラフィック社、2002
- [4] 妹尾河童、河童が覗いたトレイまんだら、文藝春秋、1996
- [5] カタログハウス編、大正時代の身の上相談、筑摩書房、2002



わ け
私が本を選ぶ理由札幌市立大学事務局地域連携課 課長
上田 理子

筆者紹介

事務局地域連携課・課長
図書館、地域連携研究センターの事務局を所管し、研究支援、
地域連携・社会貢献、国際交流事業を担当している。

本は増殖する。

本は本を呼び、本が増えていく。

1冊の本を手にするだけで、次に手にしたい本が生まれ、いつの間にか本が本棚からあふれ出してくる。

事あるごとに、「今度こそはこれ以上本を増やさない」と決心するが、本屋に立ち入ったが最後、その決心は簡単に揺らいでしまう。そして、本屋の袋を抱えて家路につく羽目になる。

テレビはあっても、なかなか見せてもらえない、そんな子供時代に、本は自分一人で遊べる特別な世界だった。

与えられた偉人伝に始まり、やがて身の周りの世界とは全く違う世界との出会いに魅惑された。感想文は大嫌いだだったので、いつも「面白かった」としか書けなかったが、小学校の図書室では次から次へと本を手にとっていった。そこで出会ったのは、ヘレン・ケラー、キュリー夫人、ラング、アシモフの世界だった。

やがて、「シャーロック・ホームズ」に出会う。全集を何度も読み返した。犯人が分かっているにもかかわらず飽きることはなかった。ホームズの観察眼に強く惹かれ、物事をきちんと見ること、知識を得ることの大事さを知った。

ホームズを皮切りに推理小説に魅入られ、アガサ・クリスティアーに出会った。少ない小遣いの中から、コツコツと集めたクリスティアー全集は今も自宅の本棚にある。

クリスティアーの面白さは犯人捜しだけではない。例えば、「ミス・マーブル」は年配の女性であるがゆえに、それまでに得た豊富な人生経験をもとに人物観察をし、心の動きや綾を洞察、理解して、謎を解いていく。人間は表に見える表情とその内面で考えていることには違いはあっても、その人のことをちゃんと愛情をもって観て、きちんと考えることができれば、その人の立場や心の動きを慮ることができる。

今でも人の心の動きや髪を丁寧に書き込んでいる推理小説が好きで、「安楽椅子探偵」系の作品を手にしてしまう。最近では、伊坂幸太郎、坂木司、加納朋子の文庫を見つけてしまうと思わず手にしてレジに向かってしまう。

ところが、先日入手した加納朋子の「無菌病棟より愛をこめて」では、期待を裏切られた。しかし、この本を手にしたことは全

イラスト・デザイン学部3年
渡辺 智香子

く後悔していない。作者名だけで買ってしまったこの作品は加納朋子自身の「涙と笑いに満ちた闘病記」(本の帯から)だったのだ。しかし、帯にある通り、よくある暗くて、重い闘病記ではなかった。

彼女が推理小説で見せる他者への温かい視線、さりげない笑いや微笑みは、作者自身の生き方や考えから生まれてきていたのだと改めて感じた。健康な人間がこのような感想を持つことは不遜なのだが、闘病するならこんな風に闘病したいと思ってしまった。

本の面白さはこんなところにある。自分が期待している結果あるいは、期待以上の結果を手にする。時には、思わぬ世界へ招待され、引きずり込まれる。そんな喜びと驚きを期待して、また、本を手にしてしまう。

本は増殖する。

でも、活字中毒者は本を読むのは、やめられない。今できる対処療法は、できるだけ本を買わずに、図書館を活用するしかない。

本=紙媒体の人間には、電子書籍にチャレンジするのはこれからの話。

お薦めの図書

「奇跡の人 ヘレン・ケラー自伝」ヘレン・ケラー著 (小倉慶郎訳)、新潮社(新潮文庫)2004、ISBN 4102148213

「キュリー夫人伝」(ソフトカバー) エーヴ・キュリー著、(河野万里子訳)、白水社、2014、ISBN 4560083894

「ラング世界童話全集」アンドリュー・ラング著、偕成社、2009、ISBN 4035511714

「完訳版 シャーロック・ホームズ全集」コナン・ドイル著、偕成社、2003、ISBN 4037381427

「クリスティアー文庫」(ハヤカワ文庫)、アガサ・クリスティアー著、早川書房、2010、ISBN 4151310800

「無菌病棟より愛をこめて」(文春文庫)、加納朋子、文藝春秋、2014、ISBN 4167901900

私の本棚にある大好きな本。

札幌市立大学桑園事務室学生支援係
佐々木 亜矢子

筆者紹介

桑園事務室学生支援係で、奨学金、課外活動、大学祭など学生生活にかかわることを担当している。YOSAKOI「真花」その他部活動・サークル、ボランティア等課外活動は可能な限りカメラ持参で応援に行く。学生が大好きで身近な存在でありたいと願っている。学生からも信頼され、気軽に声かけられる存在。

イラスト・デザイン学部3年
松谷 萌

このたび、「のほほん」への寄稿依頼をいただきました。そもそも読書家でもない事務の私が受けていいのかしら?と思いつつ、せっかくご依頼いただいたのだから精一杯やらせていただこうと、勇気を出して受けることにしました。

さて、お受けしたはいいものの、どのような本を紹介したらよいかわかりません。今売っている本を調べて読んでみようか、それとも教育的な本を探してみようか・・・思いあぐねた結果、「私の本棚」というテーマに立ち返ってみました。私は、好きだと感じた作家さんの本を全部揃えて、何度も読み返すタイプの人間です。本棚には必然的に、一人の作家さんの本がズラリと並んでいます。そんな自分に正直に、中でも特に大切にしている2冊をご紹介します。

よしもとばななの「アムリタ」と「Q人生って?」です。

「アムリタ」は、主人公(女性)の妹が自殺してしまい、母・弟・従姉妹・母の友人と一緒に生活している中で、自分が頭を打って記憶を失い、弟は色々な声が聞こえてくるという超能力に目覚めて悩み、そんな中死んだ妹の恋人だった人と恋に落ち、非日常を生き抜いているうちに色々な出会いがあって、記憶が戻り、変わらず人生は続いていくという、ファンタジーが入り混じった不思議なお話です。主人公は、普通では在り得ない状況の中を、変に前向きでなく、ただただ正直に生きていきます。その姿は、不思議なことに非日常の中の日常として、力強く見えるのです。

「Q人生って?」はそのタイトルのとおり、色々な人生相談に対して、ばななさんなりの回答が繰り返される本です。相談の内容は様々で、「ほんとうの優しさってなんだと思いますか?」という深いものから、「長くつきあった人と別れました。でもまだ好きなのです。どうしたらいいでしょう?」という恋愛もの、「テスト勉強がイヤでイヤでしようがありません。どうしたらいいのでしょうか?」という学生さんなら誰もが一度は思ったことがありそうなものまであります。よしもとばななファンでなくとも読みやすく、何となく力が抜けるのでオススメです。

生きていくと色々なことがあります。

いつだって前向きで、明るく強くいられたら最高に素敵ですが、

そうはいかないのが人生ですよ。悲しくて、つらくて、落ち込んで出口が見えない、希望が持てない時もあると思います。誰にでも。

そんな時どうすればいいの。

私は、特別なことをする必要はないと思います。泣きながらも寝て、起きて、トイレに行って、ごはんを少しでも食べて、食べられなければちょっと抜いたっていい。学校か仕事に行って、できれば自分にちょっと優しくして、本当に自分をなくしてしまえばよかったら、ためらわず誰かに助けを求める勇気を持ちながら、日常をなんとか繰り返すこと。

どん底の時はこれが意外に難しく感じるのでありますが・・・その積み重ねが、乗り越える力、生きていく力になると信じています。

そして、自分なりの時間をかけて、真っ暗闇を抜けた時、独りぼっちだったと思っていたかもしれないその時期に、心配してくれていた友達や家族の支えがあったことに気づくことができたりして、つらかったことも今となっては良い経験だったのかも・・・と思えたら、前よりもっと自分のことを好きになれるのではないのでしょうか。

そんなことを教えてくれた2冊です。

書籍のデジタル化が進み、スマートフォンがあればどこにいても瞬時に書籍データを購入できるようになりました。ちょっと悩んだ時、誰のどんな本でも、デジタルでも紙でも媒体は関係なく、何となく「その時の」自分が気になった本を手にしたら、意外な答えや自分の気持ちや言葉をしてくれている本に出逢えるかもしれません。

私の本棚には、これからも好きな本が増えてゆくとお思います。皆さんの本棚にも、大好きな本が増えてゆきますように・・・。

お薦めの図書

「アムリタ(上)(下)」吉本ばなな著、新潮社(新潮文庫)2002、ISBN9784101359144、9784101359151

「Q人生って?」よしもとばなな著、幻冬舎、2009、ISBN9784344017436

本棚から広がる世界

札幌市立大学看護学部3年
菅野 理紗



イラスト・デザイン学部3年
松谷 明

私は、高校の時図書委員を務めていたこともあり、放課後などは委員の仕事をするため本棚に囲まれた秘密基地のような書庫に居座っていた。1冊の本には1つの物語があり、本棚には本の形をしたたくさんの物語が詰まっているため、本を手に取りぱらぱらとめくり本棚に戻す作業を繰り返していると、あっという間に時間が経っていた。

現在、看護学部で勉強の毎日を過ごしているが、日に日に増していく課題に疲れた時、私は本を読む。頭を切り替えるという良い意味での現実逃避をしているのである。黙々と本を読んでいると頭の中のごちゃごちゃした考えがリセットされて冷静になれる。私はフィクションの小説を好んで読んでいて、登場人物の容姿を想像したり気持ちに同調したりして本の世界を楽しんでいる。また、共感できる場面を見つけた時のうれしさもあり、自分の中で思っただけで言葉にできなかった感情が著者によって言語化されていると何となくスッキリした気分になる。

しかし、自分にとって読みやすい物語と内容が頭に入りにくい物語があるため、うまく現実逃避するには本探しが重要になる。私の場合、自分のお気に入りの著者から作品を探したり、ドラマや映画などで話題になった作品の原作を手にとってみたりすることも少なくない。これは、あまり著者を知らない人や新たにお気に入りの著者を探したい人にオススメする方法である。本棚を前にして上段から目を滑らし、気になる単語を見つけたら背表紙の色やデザインが気になったりすれば手に取ってパラパラとページをめくってみるのだ。

この方法で見つけたお気に入りの2冊を紹介したい。1冊目は乙一著「失はれる物語」という本である。表紙に楽譜が描かれているデザインで、中表紙に鏡文字のタイトルがあり、次のページは銀紙のように文字を映せるようになっている。文字を映して完成させるこの仕組みは誰かに教えたくないような楽しさがある。切ないが読んだ後は胸が温かくなるような短編集に

なっていて、様々な話が入っているため読みやすい物語に出会える確率も高い。2冊目は綾辻行人著の「Another」という本である。表紙のイラストがとても綺麗で一目惚れをした。作品に登場する少女を描いたものだが、じっとこちらを見つめる瞳と丁寧な髪の描き方に目を奪われると同時に強く印象に残っている。内容としてはホラーやミステリーの要素が強いが、自分が想像している展開を終盤で裏切られる感覚が気に入っている。序盤では何を言っているか分からなかったことが最後にはパズルが完成したようにすべてがつながっていく面白さがあるため、673ページで少しページ数が多いと感じる人もいるかもしれないが、最後に近づくにつれて読むペースが上がり読みやすい作品である。

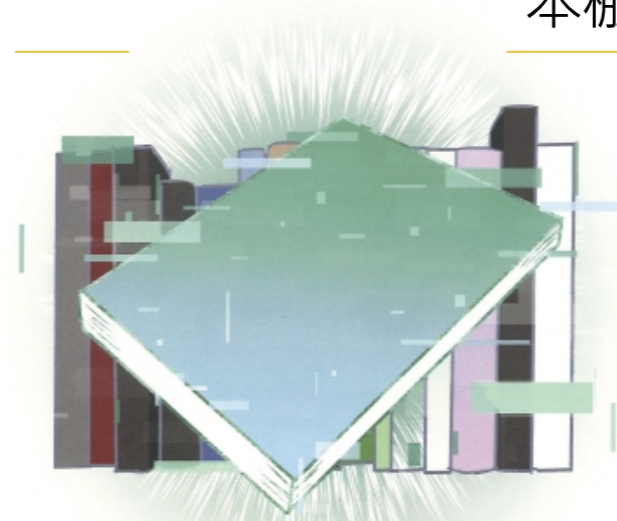
通学の電車の中で、タブレット端末で本を読んでいる人を見かけることが多くなったように、電子書籍の普及も進んでいる。電子書籍とした方が読みたい作品を容易に何冊も持ち運べし、タブレットの機能を使えば文字を大きくして読みやすくなると思う。しかし、直接図書館や書店を訪れて、品定めをするように本を選ぶ時間が無くなるのは少しさびしい気がするのだ。1冊1冊手に取って本を探すのは時間がかかるけどインターネットでの一括検索では見つけにくい隠れた本が見つかるかもしれない。目の前の本棚には自分が想像することのできないような物語がたくさん存在している。どの本で現実逃避しようかと試行錯誤して見つけた本を読むことで、違う人生を意識の中で体験し世界を広げることができると考えている。

お薦めの図書

- 「失はれる物語」 乙一著、角川書店、2003
(芸術の森 開架 913.6/Ots)
- 「Another」 綾辻行人著、角川書店、2009
(芸術の森 開架 913.6/Aya)

本棚とは何か、あと未来とか

札幌市立大学デザイン学部3年
安田 創



イラスト・デザイン学部3年
中谷 阿悠太

私は高校時代年間約180冊本を読んでいた。図書局長だったこともあり、毎日のように図書室に行けば新刊図書を読み漁っていたのだ。特に読むものを決めて探しに行くのではなく、平置きにされた面白そうな表紙の本や本棚にある気になったタイトルの本をとりあえず借りて読んでいた。特にカラフルな表紙の本や奇妙なタイトルの本は本棚から主張してくるため、読む本はほとんど“ジャケ借り”だった。そんな私は現在、高校時代のように本を読むことは少なくなった。たまたまネットで見た面白そうな本を買って読んだり、課題のために図書館に資料を探しに行き、目に止まった本を読んだりする。自分の部屋にある本棚を見た時に気になって読む場合もある。

“本棚”は家や図書館、本屋など様々な場所にあるが、本を収納するための箱という意味だけではないと思う。私が思う本棚は、本に興味を持たせてくれるディスプレイであり、新しい本を教えてくれる広告のようなものでもあると思う。本というものを意識していないときに興味を惹きつけてくれて、読書の機会を与えてくれる。本との出会いや再開をする場である。

そこで、未来の本棚のカたちについて考えてみたいと思う。現在、紙の本から電子書籍化が進んでいるが、未来の本棚はどうなっていくのだろうか。まず、今の本棚の機能の1つである“本を収納すること”は電子化によってデータとして管理できるため、必要が無くなるだろう。そうなると本棚が大きな箱として存在する意味はあまりなくなる。ならば、もう一つの機能である“広告としての本棚”、として形を変えて存在するのではないだろうか。それを見ることによって本と出会い、本を読む気にさせられる本棚。そのような意味での本棚は、本を読むという気分になる場所にあるべきだと思う。例えばバスや電車の中などだ。中吊り広告のように天井や壁に薄いディスプレイが設置されていて、本棚に本が並んでいるような画像を映し出す。表示されるのは、周りにいる人のスマートフォンなどから興味や関心のデータを集め、分析して選ばれたおすすめの本。

それを見た人は、このバーチャル本棚からおもしろそうな本を見つけ、自分の端末にダウンロードして読むことができる。

現在、バスや電車の中では皆同じようにスマートフォンやタブレットに目を落としている。一步引いてその光景を見てみるとかなり異様な光景に思える。ゲームやSNSなどで暇つぶしをするならば、その時間を読書に使ってみるのはどうだろうか。バスや電車の中にこういった本棚があれば、今よりも本に対して意識が向くのではないだろうか。

最後に、私が高校時代読んだ本で最も記憶に残っている本を紹介しようと思う。今回、未来の本棚というテーマで想像してみたが、私は妄想が好きである。考えることが好きなのだ。未来を考えるとときには社会と技術の進展を元にすることが多いと思う。科学という抵抗のある人も多いと思うが、今回紹介するのは哲学と科学の本である。タイトルは「哲学的な何か、あと科学とか」。そのまんまである。この本は科学や哲学の専門書ではなく、ドラえもんのごとくドアを題材にした哲学の話や、シュレディンガーの猫や、量子力学、クオリアなどの聞いたことあるけどよくわからないというようなテーマも分かりやすく面白く書かれている。哲学や科学と聞いて「うっ…」と引いてしまうような人も楽しく新しい世界を感じることができるだろう。哲学は、日常見過ごしてしまいがちな疑問に焦点を当てて考えてみることから始まると思う。それはデザインする上でも必要なことだ。考えるって、面白い！と思わせてくれる本だと思う。サクサク読めるのであまり本を読まない人にもおすすめだ。

お薦めの図書

- 「哲学的な何か、あと科学とか」 飲茶著、二見書房、2006

芸術の森キャンパス・ライブラリー 企画展示

『写真のちから』 2014年5月15日(木) - 6月14日(土)

札幌市立大学
芸術の森キャンパス・ライブラリー

運動企画
札幌芸術の森美術館
篠山紀信展 写真力
4.26(土) - 6.15(日)

写真のちから

期間 5.15(木) - 6.14(土)
平日9:00-21:30、土曜日10:00-15:30、日・祝祭日
お祭りはどなたでも自由に観覧いただけます。

場所 札幌市立大学
芸術の森キャンパス
ライブラリー 1F

このたび当館では札幌芸術の森美術館で開催中の「篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」に合わせて企画展示を行います。館内には、篠山氏の作品集を中心に、人物を被写体とした国内外の写真集のほか、本学写真部学生の作品など、多数展示しております。この機会に多彩な作品群から溢れる「写真のちから」に触れてください。

◆当館に来場の上スタンプラリーに参加された方に、商品をご用意しております。(先着100名)

美術館&図書館 移動MAP (100円55)

STAMP RALLY

札幌市立大学附属図書館
〒001-8584 札幌市南区基町1丁目1番地 (011)592-1181 札幌 www.lib.sci.u.ac.jp

企画展示ポスター



館内企画展示風景

芸術の森キャンパス・ライブラリーでは「写真のちから」と題し2014年5月15日(木) - 6月14日(土)の期間、企画展示を行いました。アートやデザイン分野に特化した当館の資料を展示することで、大学関係者・一般市民の方々へ「学び」「交流」の場を提供し、地域連携事業の推進に繋げることを目的としました。昨年度に引き続き、今回の展示は隣接する札幌芸術の森美術館の「篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」と連動しており、スタンプラリーも企画いたしました。

「写真のちから」展では当館に所蔵している篠山紀信氏の風景・建築・震災・ディズニー・人形・人物等を題材とした多種多様な図書の他、より一層の展示内容の充実を目指し、札幌芸術の森美術館の副館長や札幌市中央図書館より資料をお借りすることで、全94点の資料を展示いたしました。

また今回の企画展示では、篠山氏の作品の中でも特にインパクトの大きい「人物写真」に着目し、図書館アルバイトの学生による当館所蔵の「人物写真」を取り上げた図書の選書、展示資料のポップ作成、さらには写真部による「人物写真」の展示などで学生の協力を得ました。学生が作成した切り絵や仕掛けつき等のユニークなポップ、閲覧室内PCで上映した写真作品のライドショー、といった当館ならではの学生と連携した展示は、ご覧になられた方の目を引いたのではないかと思います。

両館を訪れて頂くために企画いたしましたスタンプラリーでは、記念品としてSCUマグネット・SCUうちわ・クリアファイルを用意いたしました。特に実用的なクリアファイルの人気が高く、その場で美術館のチラシ等を入れる方も多く見受けられました。

入館者数は大学から美術館に行かれた方が216名、美術館から当館の展示を観にいらした方が212名と多くの方が両館を訪れてくださり、連動企画の効果と篠山氏の人気の高さを感じられました。

今回の企画展示で多くの方に当館を活用していただいたように、よりいっそう「学び」や「交流」の場として魅力的な図書館づくりを心掛けてまいります。

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間: 2013/10/1~2014/9/30

図書貸出ランキング - 芸術の森 - AV視聴ランキング

- No.1** 3D CADデザイン術：誰も教えてくれない：SolidWorksによるデジタルスカルプチャーの実践
飯田吉秋著、ワークスコーポレーション、2006。芸術の森 2F 開架 501.8/Id
- No.2** ゲニウス・ロキ：建築の現象学をめざして
クリスチャン・ソルベルグ著；加藤邦男、田崎祐生共訳。住まいの図書館出版局、1994。芸術の森 2F 開架 520.1/Nor
- No.3** Built with Processing：デザイン/アートのためのプログラミング入門
田中孝太郎、前川峻志著、ピー・エヌ・エヌ新社、2010。芸術の森 2F 開架 007.64/Tan
- No.4** Illustratorデザインメソッド
井上のきあ著、エムティエヌコーポレーション、2010。芸術の森 2F 開架 007.642/Iho
- No.5** クリエイティブ業界に就職するためのポートフォリオの実例集
4D2A、ワークスコーポレーション書籍編集部編、ワークスコーポレーション、2011。芸術の森 2F 開架 674.4/Cre
- No.6** 日本語のロゴ：漢字・ひらがな・カタカナのデザインアイデア
フレア、グラフィック社編集部編、グラフィック社、2013。芸術の森 2F 開架 674.3/Nih
- No.7** Photoshopデザインメソッド
井上のきあ著、初版第1刷、エムティエヌコーポレーション、2010。芸術の森 2F 開架 007.642/Iho
- No.8** TOEICテスト新公式問題集
Educational Testing Service著；国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会編；Vol. 5。国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、2012。芸術の森 2F 開架 830.79/Edu/5
- No.9** よくわかるHTML5+CSS3の教科書
大藤幹著、マイナビ、2012。芸術の森 2F 開架 547.48/Ofu
- No.10** 問題解決ができる、デザインの発想法
エレン・ラプトン編；郷司陽子訳、ピー・エヌ・エヌ新社、2012。芸術の森 2F 開架 757.04/Lup

総評

1位の「3D CADデザイン術」をはじめ、デザインやプログラミングの参考になる図書が、昨年度以上に多くランキング入りしています。学習や作品の制作に意欲的に取り組んでいる様子が見えるランキングになりました。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 三浦)

図書貸出ランキング - 桑園 - AV視聴ランキング

- No.1** 疾患別看護過程の展開
山口瑞穂子、関口恵子監修。第3版。学研、2008。
桑園 開架 492.914/Shi
- No.2** 疾患別病態関連マップ
山口瑞穂子、関口恵子監修。第3版。学研、2008。桑園 開架 492.914/Shi
- No.3** ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図
佐世正勝、石村由利子編。医学書院、2009。桑園 開架 492.924/Sas
- No.4** SPSSで学ぶ医療系データ解析
対馬栄輝著。東京図書、2007。桑園 開架 490.19/Tsu
- No.5** 質的研究実践ノート：研究プロセスを進めるclueとポイント
萱間真美著。医学書院、2007。桑園 開架 492.907/Kay
- No.6** 腎・泌尿器
医療情報科学研究所編、Medic Media、2012。(病気がみえる / 医療情報科学研究所編；v. 6)。桑園 開架 492/Iry/8
- No.7** 認知症高齢者の看護
中島紀恵子責任編集；太田喜久子、奥野茂代、水谷信子編集。医歯薬出版、2007。桑園 開架 492.929/Nak
- No.8** 脳・神経
医療情報科学研究所編、Medic Media、2011。(病気がみえる / 医療情報科学研究所編；v. 7)。桑園 開架 492/Iry/7
- No.9** 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図
井上智子、佐藤千史編集。医学書院、2008。桑園 開架 492.914/Iho
- No.10** よくわかる質的研究の進め方・まとめ方：看護研究のエキスパートをめざして
グレッグ美鈴、麻原きよみ、横山美江編著。医歯薬出版、2007。桑園 開架 492.907/Ger

総評

1位の図書は昨年と同じで、今年は2位もその関連図書となりました。上位と同様に「病気がみえる」シリーズなど実習時に役立つ図書が人気ですが、データ解析や論文の書き方など看護研究に関する図書の利用が今年は大幅に増加しました。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 川口)

- No.1** 宮崎駿の仕事
NHK制作・著作；NHKエンタープライズ、2009。(NHK DVD / プロフェッショナル：仕事の流儀)。芸術の森 1F AV 366.29/Pro
- No.2** ハウルの動く城
宮崎駿脚本・監督；ダイアナ・フィン・ジョーンズ原作；スタジオジブリ制作。スタジオジブリ (制作)、2005。(ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオジブリ制作)。Studio Ghibli DVD Video)。芸術の森 1F AV 778.77/GH
- No.3** スタジオジブリ 鈴木敏夫の仕事：自分は信じない人を信じる
NHK制作・著作、NHKエンタープライズ、2006。(NHK DVD / プロフェッショナル：仕事の流儀；DVD-BOX；第1期)。芸術の森 1F AV 366.29/Pro/1-10
- No.4** ものけ姫
宮崎駿原作・脚本・監督；スタジオジブリ制作。スタジオジブリ (制作)、2001。(ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオジブリ制作)。芸術の森 1F AV 778.77/GH
- No.5** おおかみこどもの雨と雪
畑田守監督・原作；畑田守、奥寺佐渡子脚本、高田貴博・レイ・パップ、2013。芸術の森 1F AV 778.77/Oka
- No.6** コクリコ坂から
宮崎駿企画・脚本；宮崎吾朗監督。ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン (発売)、2012。(ジブリがいっぱいCOLLECTION / スタジオジブリ制作)。芸術の森 1F AV 778.77/Ghi
- No.7** Toy story 3
ジョン・ラセター監督 - プエナビスタホームエンターテインメント (発売)、2010。(Disney DVD / Disney Pixar)。芸術の森 1F AV 778.77/Toy/3
- No.8** 漫画家 井上雄彦の仕事：闘いの螺旋、いまだ終わらず
NHK制作・著作；[一般個人用]。図書館等非営利上映用、NHKエンタープライズ、2010。(NHK DVD / プロフェッショナル：仕事の流儀；DVD-BOX；第6期)。芸術の森 1F AV 366.29/Pro/6-10
- No.9** 愛のむきだし = Love exposure
園子温監督・脚本・原案。アムニエソフトエンタテインメント (発売・販売)、2009。芸術の森 1F AV 778/Ain
- No.10** 京菓子司 山口富蔵の仕事：古都の雅、菓子のこころ
NHK制作・著作。図書館等非営利上映用、NHKエンタープライズ、2009。(NHK DVD / プロフェッショナル：仕事の流儀；DVD-BOX；第5期)。芸術の森 1F AV 366.29/Pro/5-7

総評

昨年に引き続き、アニメーション映画の根強い人気が見えるランキングとなりました。また、宮崎駿監督の引退報道の影響もあるのか、スタジオジブリのドキュメンタリー映像も上位にランキング入りしています。昨年までにはなかったプロフェッショナルシリーズのランキング入りも興味深い結果です。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 高杉)